

令和2年度 第1回明石市総合教育会議（議事要旨）

日 時	2020年(令和2年)9月2日(水) 16:00~17:10
場 所	明石市役所議会棟 大会議室
出席者	泉房穂市長、清重隆信教育長、伊賀文計教育委員、栗岡誠司教育委員、川本まり子教育委員、柏木輝恵教育委員
協議・調整事項	(1) 併設型小中一貫教育校の開設について (2) 学校教育のICT化について (3) SDGsの推進について (4) LGBTQ+/SOGIEの取組について (5) その他
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 併設型小中一貫教育校の開設について ・参考資料1 (仮称)高丘小中一貫教育校チラシ案 ・資料2 学校教育のICT化について ・資料3 SDGsの推進について ・参考資料3 SDGs未来安心都市明石ポスター ・資料4 LGBTQ+/SOGIEの取組について ・参考資料4 明石にじいろそうだんチラシ ・広報あかし2020年(令和2年)7月15日号 ・広報あかし2020年(令和2年)8月1日号
事務局	政策局SDGs推進室 (その他出席者)教育委員会事務局

1 開 会

2 議 事

(1) 併設型小中一貫教育校の開設について

- ・教育局長から、資料1に基づき、併設型小中一貫教育校の開設について説明の後、意見交換。

(市長)

- ・市長部局としてはこの大事なテーマについて予算措置も含めてしっかりと応援させていただきたい。

(教育委員)

- ・高丘校区の3校と明石北高等学校は近いので、高丘一帯を理数に強い場所にして、兵庫県を代表するような小中一貫教育校になってほしい。
- ・そのため、人事面、予算面において市長部局からの多大なる応援が不可欠である。

(教育委員)

- ・30人学級は、教える側の教員にとっても丁寧に対応できる体制である。今後、アクティブラーニングやグループワークでの効果を期待したい。
- ・少人数学級を他の小中学校にも広げてほしい。

(市長)

- ・個人としては少人数学級が望ましいと思っているが、全学年に導入するには人件費の問題もあるので悩ましい。
- ・小中一貫教育校は、今後、他の地域で開設する可能性はあるのか。

(教育局長)

- ・明石小学校と錦城中学校をモデル校として研究している。
- ・他の小・中学校も、校区ユニットという形で小・中学校に強いつながりがある。高丘校区で検証し、他の地域にも進めていきたい。

(教育委員)

- ・明石市は東西に長い地形なので、通学の利便性を考えると、東と西に1校ずつ開設してほしい。

(教育長)

- ・他の自治体の小中一貫教育校は統廃合型が多いが、明石市は併設型で純粋に教育を高めるために開設する。特に、明石北高校との連携は他にはなかなかない取組である。
- ・高丘校区で検証し、教育効果が確認できれば他の地域にも広げたい。

(市長)

- ・市民の関心も強く、問い合わせも多いと思うので、広報あかしなどでしっかり周知していきたい。

(2) 学校教育のICT化について

- ・教育局長から、**資料2**に基づき、学校教育のICT化について説明の後、意見交換。

(教育委員)

- ・長期的な休校においてICT化は大変有効だが、教師とこどものふれあう機会が少なくなる可能性もあり、こればかりに頼るのが良いとは限らない。

(教育委員)

- ・オンライン授業（遠隔授業）と対面授業は、両方を上手に使いえば効果が高まると実感している。ぜひそれぞれの良いところを活かして授業ができるように予算措置をお願いしたい。

- ・教師と生徒のふれあいや理科の実験など授業を生で見ることの重要性を忘れないようにしてほしい。

(教育委員)

- ・ぜひ入院している子どもや療養中で学校に通えない子どもたちのために、学べる環境の構築をしていただきたい。

(教育委員)

- ・ICT化はコロナ禍ではオンライン授業としての役割が多かったが、今後は対面授業を補足する役割を期待したい。
- ・学習状況や発達段階、家庭環境などが異なる中、一律ではない個別のサポートが求められている。対面授業を大事にしながら、ICT機器をフォローアップに活用し、個々に応じた支援ができれば良いと思う。

(市長)

- ・病気で学校に通えない子どもや不登校の子どもも家で授業を見ることができるよう、ICT機器を幅広く活用していきたい。

(教育長)

- ・ICT化は、実体験的な学習との二項対立軸ではなく双方ができることを補完することと、これまで実現できなかったことも含めて新たな方策を模索することが大事だと思っている。

(3) SDGsの推進について

- ・政策局長から、**資料3**に基づき、SDGsの推進について説明の後、意見交換。

(教育委員)

- ・SDGsは学校教育の場で理解を進めるだけでなく、社会人になっても持続的に思いを持つべきである。生涯学習の時代なので、高齢者などにも働きかけてはどうか。

(政策局長)

- ・「SDGs未来都市」は、今年度で3年目となり、現在、全国で93団体が選定されている。
- ・子どものみならず社会全体にSDGsを普及させるため、他部署と連携しながら取組を進めたい。

(市長)

- ・兵庫県では明石が初めてで、全国的には93団体が認定され、今後続く可能性があると考えている。
- ・明石市は先立って、「共生社会ホストタウン」という形で全国初で認定を受け、「先導的共

生社会ホストタウン」という上の段階も全国初で認定を受けた経緯がある。こどもや障害者へのソフト系の部分を評価いただいたと思う。

- ・今回改めて、社会、経済、環境の3側面から明石市として整理し直し、国にご説明し、認めていただいた。
- ・SDGsに取り組む自治体と情報を共有し、企業とも連携していきたい。

(教育委員)

- ・SDGsの取組もLGBTQ+／SOGIE施策についても始まったばかりで、まだ知らない人も多いと思うので、周知啓発を進めてほしい。

(教育委員)

- ・SDGsは、就学前の児童にも伝えていきたい。

(教育長)

- ・ESD(持続可能な開発のための教育)は、生物多様性や環境学習、福祉、平和学習などの分野を総合的に取り組むこととしており、今まで明石市も取り組んできた。
- ・ESDをSDGsの目標と結び付けていきたい。

(市長)

- ・SDGsはオール明石で取り組むことが重要である。地域や企業と連携したい。

(4) LGBTQ+／SOGIE施策について

- ・政策局長から、**資料4**に基づき、LGBTQ+／SOGIE施策について説明の後、意見交換。

(教育委員)

- ・専門相談ができたことは大変素晴らしい。性別違和に悩む10代の方が多いのではないかと相談できる場所があることを周知してほしい。
- ・今は相談日時や方法が限定的である。メールを使わない人も増えたので、若者向けにチャット相談の導入など相談体制を充実化してほしい。

(事務局)

- ・7月から専門相談窓口をはじめたばかりなので、相談件数を踏まえながら様々な方法を考えたい。
- ・こどもが市役所へ直接アクセスするのはハードルが高いと考えられるので、養護教諭と共有し、先生を通じた相談も非常に有効かと思う。校長会で相談したい。

(市長)

- ・明石市としては、相談どまりではなく、相談からの支援、課題解決まで視野に入れる必要があると認識している。
- ・LGBTQ+／SOGIE施策は、関係機関や企業、様々な職場、いろんな部分の理解なくしてはなかなか容易ではない面も数多く残っている。
- ・実効性のあるものにするために、関係機関やこの分野の第一人者にもお願いし明石市の制度設計のアドバイスをいただいている。市内の医療機関や商工関係の方々にもお越しいただき、情報交換、課題整理をしている段階であるので、実のある、実効性のある制度にしていきたい。

(教育委員)

- ・制服を変えようとする大きなエネルギーが必要となる。教育委員会議でも話し合いを行っているが、高丘校区に小中一貫教育校を開設するときに、制服への配慮ができれば良いと思う。

(教育長)

- ・中学校の教科書の採択においては、LGBTQ+／SOGIEの観点も考慮した。
- ・教育現場で、教師が生徒にどのように教育するかが重要である。

(5) その他

(教育委員)

- ・新型コロナウイルスに感染したこどもが、学校でいじめに遭わないように取り組んでほしい。

(市長)

- ・コロナ禍における教育のあり方も大きなテーマではあるが、3月以降、一斉休校となったあたりから、今もなお学校に行かせたくない、うちの子だけ行かなかつたら遅れるから全員行ってほしくない、修学旅行はそもそもやめるべきだなど数多くの意見をいただいている。他方、ご家庭でこどもを見にくい方からは、できるだけ学校で対応いただかないと、学校が閉まったり、給食がなくなったり、たちまち様々な課題に直面するという声も聞いている。
- ・すべての人にご納得いただくのは現実的には大変困難な中で、丁寧な説明と配慮を重ねながら対応していく状況だと思っている。
- ・そういう中では、明石市の学校現場の先生方を中心にこどもに寄り添う形で精一杯対応していただいていると認識しているので、お礼を申し上げたい。より一層丁寧な対応をお願いしたい。あわせて市長部局からも予算や応援をしたい。

(教育委員)

- ・明石市は非常に福祉が強いまちだが、人口推移も増えており、非常に良い状態が続いてい

る。教育も予算をつけているのは重々承知だが、さらに、力をいれていただきたい。

(教育委員)

- ・みんなにやさしい施策は非常に良い。今は寛容が重要である。小さい子どもを見ていると、思いやりのある子が人気である。
- ・学力向上や感染症対策のために少人数学級にしてほしい。

(教育委員)

- ・教育においても誰一人取り残さない姿勢が大事だと思っている。こどもの置かれている環境が多様化している中で、市としても力を入れてほしい。

3 閉会

以上